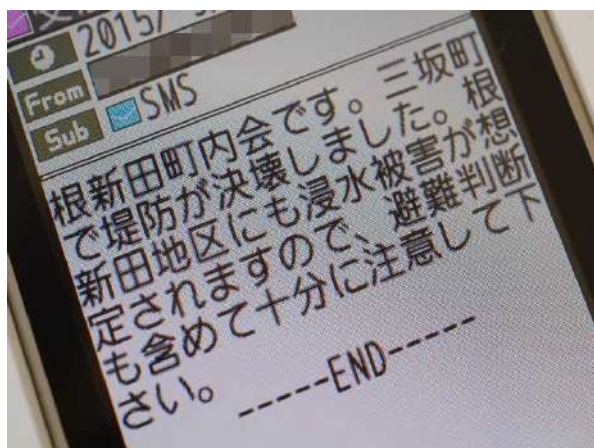


わがまちねしんでん

<http://neshinden.com>



「ITを活用した災害に強い町づくり」

ホームページ：SMS 一斉送信システム：マイ・タイムライン：防災カメラ

《 自主防災活動の変遷と記録写真集 》

常総市中妻町・根新田町内会

《 本格的な防災活動の起点 》

2015年9月の「関東・東北豪雨災害」

地区の上流約4km地点で鬼怒川の堤防が決壊し、地区の殆どが床上浸水の甚大な被害を受けました。コミュニティ活動の拠点となっていた公民館も床上浸水1mの被害を受け、自然の猛威の前に為す術も無い人間の非力さに、ただ茫然とするだけの日々が続きました。

水も引き、各地から災害ボランティアの皆さんが続々と支援に入り、泥だらけになりながら一生懸命お手伝いしてくださる姿や温かい言葉に大いに励まされ、町民一丸となった復旧活動と「災害に備えた町づくり」が始まりました。

《 ITを町内会の活動へ 》

さかのぼって「関東・東北豪雨災害」の前年8月、町内会の活動を内外に広く公開し、共に地域活性化の情報共有を願って、地域コミュニティサイト「わがまちねしんでん」の運用を開始しました。当年10月には緊急時に役立つ情報伝達のツールとして携帯電話のショートメールを使った全町民への「SMS一斉送信システム」の運用も開始しました。

《 ITを防災活動へ活用 》

そして翌年の9月10日に発生した「関東・東北豪雨災害」で、各避難所や親類宅に分散した町民と町内会を結ぶ情報共有の手段として「SMS一斉送信システム」が驚異的な効果を発揮したのです。決壊前の鬼怒川の水位情報の発信から始まり、決壊時の避難喚起、決壊後の地区内の浸水状況や帰宅の為の道路情報、支援物資の入荷情報、災害ボランティアさんの手配情報など、合わせて50通の緊急情報を浸水した地区内から町民の携帯電話に発信し続けました。

私達としては従来から運用していたシステムを災害に使用したまでの事でしたが、9月28日NHK総合テレビ「シブ5時」でこの話題が地区内から生中継され、大きく報道されました。これを皮切りに「逃げ遅れを防いだ町内会の先進的な取り組み」として報道各社が連日の様に取り上げ、共同通信社の取材もあって全国的に広報される様になりました。

《 災害犠牲者ゼロをめざして 》

そして水害の怖さ、自然災害の猛威に立ち向かうべき、私たちは「災害犠牲者ゼロを目指した」自主防災組織の設立に邁進する事となったのです。

災害に備えるにはどうしたらよいか、実効的な防災活動、減災活動は何かと考えた時、私達の地域では、水害と震災各々について備える必要がありました。

水害の場合は、台風の発生から河川の水位上昇、氾濫等と発災までのプロセスに予想がつくので、まずは台風が接近してきた時の基本的なチェックリストの作成に取り組んでいました。時期を同じくして国土交通省下館河川事務所、常総市から「マイ・タイムラインのモデルを作ってみませんか」という提案があり、これぞ私たちが望んでいたものとばかり“水害時の避難行動計画マイ・タイムライン”を作る取り組みを開始し、2017年2月に完成したのです。町内会のレベルでは全国初の取り組みとの事で、これで台風発生から時系列的に自分は何をするのかが分かり、計画的な行動が出来る様になりました。

並行して、鬼怒川に注ぐ地区内を流れる千代田堀川を監視する防災カメラの設置を検討しました。電気やITに詳しい人的資源を活用して、2017年1月に事務局宅のベランダにカメラを設置し、その映像を町内会のホームページに自動転送、誰でも見られる様に公開しま

した。この映像を監視する事によって地区内に避難勧告が出る前に、住民自ら避難の判断が出来る事や、避難所や親戚宅にいても地区内への浸水の予測が付き、被災状況の把握や地区外からの帰宅の判断に大いに役立つ事になりました。

“SMS”、“マイ・タイムライン”、“ホームページ”、“防災カメラ”の連携により、

1. 大型台風が関東地方に接近、「SMS一斉送信システム」で注意喚起
2. 「マイ・タイムライン」に従って各々が計画的に行動
3. ホームページで、防災カメラの映像を確認し、避難行動に役立て
4. 「SMS一斉送信システム」で情報共有

という水害に備えた「災害犠牲者ゼロをめざす」プロセスが完成したのです。

反面、大地震の場合は突発的に発生するので、事前の対策は困難を極めます。地震が発生した時に自身や家族の安全を確保するのは当然ですが、“隣近所の安否を迅速に確認して救助する”といった行動を、その時町内にいる人達が確実に実行出来れば、自主防災活動の第一の目的は達成されたと言っても過言ではありません。

そこで、在宅家族の安全が確保できたら「無事ですタオル」を玄関先に掲げて、家族の安全を告知してから隣近所の安否確認をする。要救助者がいれば「SMS一斉送信システム」を使って「〇〇宅で救助要請、町内にいる方は至急救援のこと」という内容のメールを町民の携帯電話に一斉に発信することで、安否確認から救助までを効率的に迅速に実施する事が可能となりました。

本年6月17日には「無事ですタオル大作戦」と称して実際に訓練も行いました。その模様は当日のNHK首都圏ニュース845で放送されると共に、新聞各社が訓練の予告や実施の模様を報道しました。このような防災活動を広く公開する事によって各自治会の防災力アップに少しでも貢献出来ればと願ってやみません。いうなれば各自主防災組織間で「いいとこ取り」をして、共に防災力向上につなげられればと強く思っています。

さらに、「自主防災活動を強力に推進しよう」と現在7人の防災士が活躍しています。また「きめ細やかな女性の特性を自主防災に生かす」事を基本に、各班から選出された12人の女性防災委員が組織の最前線で活躍しています。以上の様に、防災活動に積極的に取り組んで来てはいるものの行政への正式な登録が無かったこともあって、2018年6月10日「自主防災組織決起大会」を開催し『根新田自主防災基本計画』の基に、住民一人一人が決意を新たにしました。

平成30年度には、普段の地域コミュニティ活動を基軸とした自主防災活動が認められ、全国規模の表彰制度である「あしたのまち・くらしづくり活動賞」主催者賞及び「防災まちづくり大賞」総務大臣賞を受賞しました。

《 さいごに 》

古き時代から言われて来た「向こう三軒両隣」の精神。都会ではすっかり影を潜め、地方でも世代の交代と共に希薄になりつつあるなかで、未曾有の災害を経験した私達は失われた事以上に地域の助け合いの大切さを改めて心に刻みました。自主防災の根底によどみなく流れる共助の精神、地域コミュニティをしっかりと後世につないでいく事が我々の責務ではないでしょうか。

■「わがまちねしんでん」運用開始（2014年8月）

町内会の活動を広く知って頂き、共に地域活性化の情報共有を願って、地域コミュニティサイト「わがまちねしんでん」を開設しています。運営は町内会事務局で行っていて、ホットな情報を素早く流せる体制をとっています。

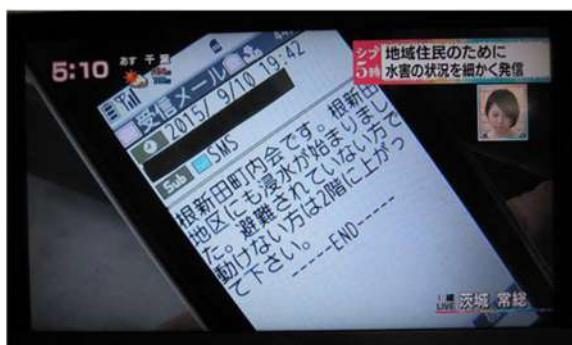


「わがまちねしんでん」 <http://neshinden.com>

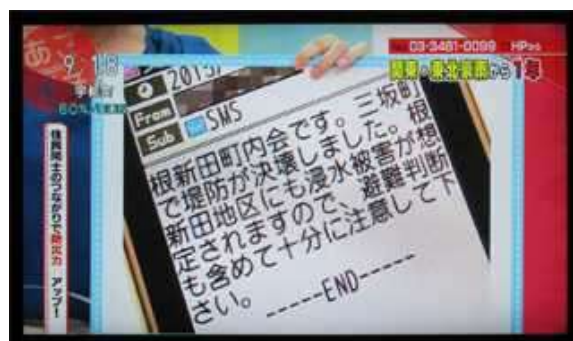
■「ねしんでん”ほっとメール”」運用開始（2014年10月）

雨天予想時の行事態度決定連絡や災害発生時、防犯情報等、緊急性の高い情報を町民に瞬時に伝達する事を目的として「SMS一斉連絡システム」の運用を開始しました。緊急時には事務局から全世帯の携帯電話に一斉にショートメールが送られます。「関東・東北豪雨災害」ではこのシステムを最大限活用し、避難所の住民への地区内の浸水状況、帰宅のための道路状況、支援物資や災害ボランティアさんの情報等の緊急メールを送信し続け、逃げ遅れの防止や復旧活動での情報提供に驚異的な効果を発揮し、テレビ、新聞で何度も取り上げられました。これにより、現在全国で10以上の自治会が「SMS一斉送信システム」を採用しています。

（HPの「ほっとメール」のページで紹介しています）



2015. 9. 28
NHK 総合 「ニュースシブ5時」で生放送



2016. 9. 7 NHK 総合 「あさイチ」で放送

■「防災用ライブカメラ」の設置（2017年1月より運用）

「関東・東北豪雨災害」での教訓から、町内東側を流れる千代田堀の溢水(いっすい)状況を監視する防災カメラを設置し、町内会のホームページでどなたでもいつでも見られる様にしました。このライブ映像により避難判断の目安も確認出来、避難所でも町内への浸水状況が分かる様になりました。（HPの「防災用ライブカメラ」のページで紹介しています）



事務局宅のベランダに設置したカメラ



ホームページに映像を自動転送する自作の装置

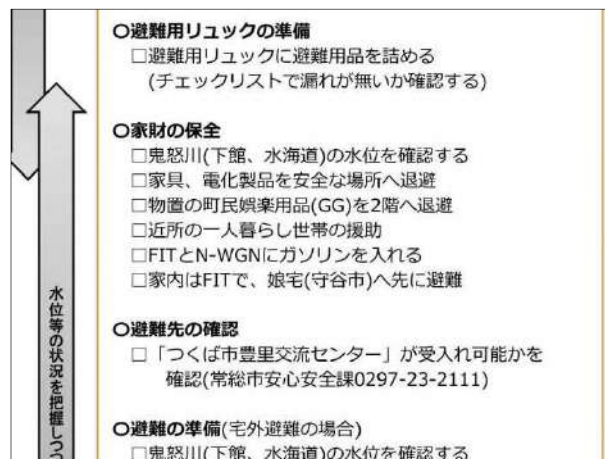
■「マイ・タイムライン」への取り組み（2017年2月）

大型台風が接近する場合等に事前に決めた各自(家族)の避難計画「マイ・タイムライン」に沿って行動する事により、迅速で確実に身の安全を確保する事を目的として、国土交通省、常総市、学識者の皆様のサポートを得ながら取り組んだ全国初のプロジェクトです。

（HPの「マイ・タイムライン」のページで紹介しています）



3回に分けて行われたプロジェクトが終了



実際のマイ・タイムライン(項目抜粋)



2018.6.21 NHK総合「あさイチ」での紹介



町内会の防災士が取材を受けました

■「防災士の誕生」 (2018 年 1 月)

地区の自主防災活動をより強固なものにするために防災士を育成しました。現在 7 名の防災士が活躍しています。



根新田自主防災組織を牽引する防災士(他 2 名)



安否確認訓練図上演習の様様

■「根新田総合防災訓練の実施」 (2018 年 1 月実施)

大地震を想定して、地区内の「災害時一時避難所」に避難する訓練を行いました。同時に“青色パトロール車による災害時窃盗犯罪の監視訓練”、子供会父兄による“支援物資の配布訓練”等、防災士が中心となって、若い世代からシニアまで幅広い年齢層が活動の中核を担っています。
(HPの「根新田総合防災訓練」のページで紹介しています)



助け合いの重要性について力説する事務局



災害時窃盗犯罪の監視訓練



子供会父兄による支援物資配布訓練



支援物資(保存食)の配布に長蛇の列

■「根新田自主防災組織決起大会」（2018年6月）

従来から積極的に防災活動を実施しているものの、行政への正式な登録が無かった事もあって、常総市長や関係機関の皆様においで頂き「自主防災組織決起大会」を開催しました。



根新田公民館をバックに、みんなで記念写真

■「根新田自主防災基本計画」（2018年6月）

今まで取り組んで来た防災活動のノウハウを基に「自主防災基本計画」を策定しました。これにより普段の減災活動から災害発生時の基本行動まで「災害犠牲者をゼロにする」為の住民が取るべき行動が詳細にわかるようになりました。

根新田自主防災基本計画

「災害犠牲者"ゼロ"」を目指して!!

Kishinoda Jisyu Bouzai
向こう三軒両隣
みんなが助けあおう
根新田自主防災組織

根新田町内会

Vol 1.0

はじめに

災害時での負傷者救出は近隣住民の助け合いによるものが多くを占めています。阪神・淡路大震災での救出者数を見ても「家族・近隣住民による救出」が何と77%も占めているのです。

大災害の時は、多くの人々からの救助要請が行政や消防署に一齐に入ります。また道路の寸断や通信網の途絶等で公助は地域の力、近所同士の助け合いが必要です。

「来る為に人達と、い、地域、基本的なではない」

根新田町内会では、かねてより共助の精神を大切にし、住民の皆さん相互が楽しく安心して暮らせるように様々な行事や活動を実施しています。

何かの縁でこの地に住み、出会った仲間として、今こそ「向こう三軒両隣」の基本的精神に立ち返り、近所同士の助け合いと、さらなる地域交流への積極的な参加をお願い致します。

発生時の活動と役割分担

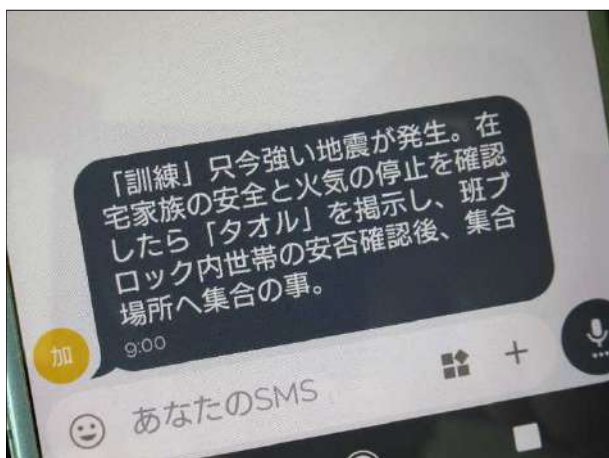
出火(火災)の防止
安全の確保
停止
確認
連携した班内世帯の安否確認
救出
消防署及び会長への救援要請
出火(火災)確認と初期消火
状況把握と救援要請
班内世帯の安否確認
安否状況の報告
班全体の指揮
連絡及び招集
班への初動対応の確認
及び被災状況の把握
及び本部各班の統括
班の受電
による町民への緊急連絡
及び要員の確保
及び外部機関との対応
警察署、隣接自治区等との相互連絡
及び受入
被害者の手配及び受入
及び被災状況の情報収集
救助者及び被災状況の情報収集
移動局)による情報収集
搬入
班の実施
活動
パトカーによる巡回警備
整備
物資の受入及び配布
場合の主動的な対応

6

■「無事ですタオル大作戦」安否確認訓練の実施（2018年6月）

災害発生時に極めて重要な「速やかな安否確認」、当町内会では「SMS 一斉送信システム」と「無事ですタオル」を組み合わせ、全国初のユニークな防災訓練を実施しました。訓練の様子は当日の NHK 総合テレビ首都圏ニュース 8 4 5 で放送されました。

（HPの「無事ですタオル大作戦」のページで紹介しています）



SMS 一斉送信システムで訓練開始



「黄色いタオル」を掲げてから隣近所の安否確認

■「安否確認のプロ・女性防災委員」

『根新田自主防災基本計画』では、「きめ細やかな女性の特性を防災活動に生かそう」を大きな柱として、各班毎に2名の女性防災委員を任命しています。女性は近所の世帯構成やお年寄りの健康状態等を把握しているいわば「安否確認のプロ」。発災時に極めて重要な安否確認には大きな戦力となります。（HPの「無事ですタオル大作戦」のページで紹介しています）

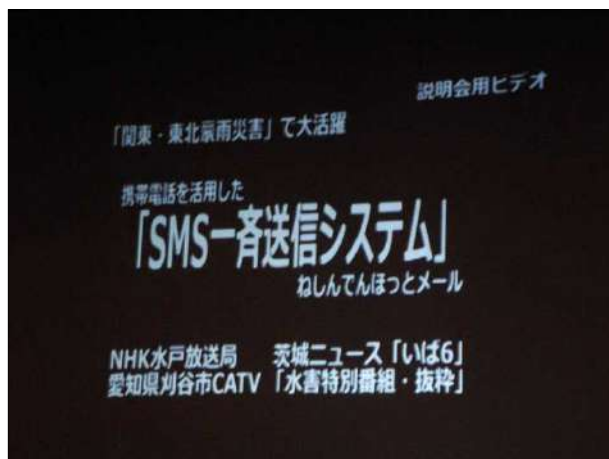


安否確認訓練での女性防災委員の活躍、各班長と共に班員の安全をしっかりと見守ります

■「出前講座(防災研修会)」の実施 (2016年8月より実施)

根新田町内会では「関東・東北豪雨災害」での取り組み、その後の防災活動が話題になり、各方面からの講演依頼は、今後の予定も含めて40講演を超えました。共に学ぶ防災力向上の活動として、今後も積極的に実施して参ります。

最新の予定はホームページの「出前講座(防災講演会)」のページで紹介しています



パワポにビデオを組みこんで分かりやすく説明



大阪市平野区での防災フォーラムの様様

今まで実施した出前講座と今後の予定

2019. 10. 11	埼玉県飯能市自治会連合会	2018. 07. 26	山梨県南巨摩郡富士川町区長会
2019. 09. 05	長野県佐久市野沢地区区長会	2018. 07. 12	長野県長野市柳原地区住民自治協議会
2019. 08. 21	埼玉県熊谷市・防災講演会+MTL講習会	2018. 04. 07	大好きいばらき県民会議
2019. 07. 26	茨城県つくば市筑波大学水害FW	2018. 03. 09	大阪市平野区防災フォーラム
2019. 06. 18	群馬県沼田市自治会長会	2018. 02. 04	茨城県利根町区長会
2019. 06. 09	野田市西大和田第三自治会自主防災会	2017. 11. 09	茨城県東海村自治会連合会
2019. 06. 01	狭山市自治会連合会	2017. 10. 24	埼玉県川島町自治区長会
2019. 05. 16	茨城県県議会防災環境産業委員会	2017. 08. 22	東京都国分寺市高木町自治会
2019. 03. 17	東京都稲城市押立地区自治会	2017. 08. 10	公益財団法人市民防災研究所
2019. 03. 02	国土交通省近畿地方整備局(京都)	2017. 07. 12	神奈川県小田原市自治会連合会
2019. 02. 23	栃木県栃木市岩舟町まちづくり協議会	2017. 06. 24	東京都足立区まちづくり推進委員会
2019. 02. 17	埼玉県加須市三俣地区自治会長会	2017. 05. 11	静岡県御殿場市村松地区自治会
2019. 02. 07	第23回「震災対策技術展」	2017. 02. 16	茨城県東海村自治会
2019. 01. 31	埼玉県八潮市町会自治会連合会	2017. 02. 14	埼玉県東松山市自治会連合会
2019. 01. 29	長野県長野市芹田地区住民自治協議会	2017. 02. 13	茨城県ひたちなか市自治会
2019. 01. 24	埼玉県羽生市コミュニティ協議会	2017. 02. 03	栃木県佐野市防災講演会
2019. 01. 17	埼玉県熊谷市自治会連合会	2017. 02. 02	茨城県自主防災リーダー研修会県南
2018. 11. 13	埼玉県加須市自治協力団体加須支部	2017. 01. 17	茨城県自主防災リーダー研修会県北
2018. 11. 10	神奈川県高座郡寒川町一の宮西自治会	2016. 12. 23	茨城県常総市自主防災組織研修会
2018. 11. 08	千葉県野田市自治会連合会	2016. 12. 12	茨城県取手市自治会
2018. 11. 04	神奈川県茅ヶ崎市柳島自治会	2016. 11. 16	埼玉県戸田市自治会
2018. 08. 26	茨城県龍ヶ崎市市民防災フェア	2016. 11. 15	東京都八王子市自治会
2018. 08. 19	長野県長野市柳原地区MTL講習会	2016. 08. 25	埼玉県川島町自治会

《 受賞履歴 》

■「あしたのまち・くらしづくり活動賞」主催者賞受賞（2018年11月）

読売新聞社、日本放送協会（NHK）主催の平成30年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」において主催者賞を受賞しました。この賞は「地域が直面しているさまざまな課題を自らの手で解決して住み良い地域社会の創造をめざし、独自の発想により大きな成果を挙げている団体に贈られる」との事です。



■「防災まちづくり大賞」総務大臣賞受賞（2019年3月）

総務省・消防庁主催の平成30年度「防災まちづくり大賞」において総務大臣賞を受賞しました。この賞は「防災に関する優れた取り組みを行い、災害に強いまちづくりに大きく貢献している団体に贈られる」との事です。



第23回 防災まちづくり大賞受賞団体	
総務大臣賞	
■ 根新田町内会（茨城県常総市）	「ITを活用した災害に強い町づくり」
■ Seya 防災ネットワーク（神奈川県横浜市内）	「多様な防災の力を結集し、防災ネットワークづくり」
■ 西崎ニュータウン自治会自主防災会（神奈川県横浜市内）	「防災避難に対する継続的な取組（中核防災会と西崎ニュータウン地域）」
消防庁長官賞	
■ 宮城野区福祉町町内会（宮城県仙台市）	「災害の減災をめざした一町内会が中心となった全戸参加型の自主防災会」
■ 阿南市立津乃崎小学校（徳島県阿南市）	「絆をつくり、地域と共に命を守る。つぎの世代に防災リーダー」
■ 久万高原町青少年女性防火委員会（愛媛県久万高原町）	「家庭防災」から「地域防災」への関わり
■ 三津自主防災組織（高知県高知市）	「住民全員で取り組む安心・安全のまちづくり（防災ことづくり）」
■ 北九州市若松消防団（福岡県北九州市）	「北九州市若松消防団（カッパ・ファイヤーズ） 防火・防災劇」
日本防火・防災協会会長賞	
■ 旭町三丁目自治会（栃木県栃木市）	「安全な町（逃げ遅れ0）を目指した防災活動及び平常時から地域活動」
■ 津田沼ハイライズ自主防災会（千葉県習志野市）	「子どもからシルバー世代まで、みんなで取り組む防災対策」
■ 港区立港南中学校（東京都港区）	「地域で育てる防災の担い手」
■ 川崎市立川崎高等学校+大島地区連合町内会（神奈川県川崎市）	「1,800人の力を「避難者」から「避難者」に。～地域の方と住み分け、校内避難所運営にむけて～」
■ 千村台自主防災会（神奈川県横浜市内）	「災害初期の人命救助・初期消火の地域実力の向上（リアルな防災訓練の実施）」
■ 掛川市南郷地区まちづくり協議会（静岡県掛川市）	「住民自らが防災知識と備えについて意識を高めて情報共有～同僚三軒両隣がともに助け、支え合う地域の絆づくり～」
■ 武蔵町防災ボランティアの会（愛知県武蔵町）	「パッケージ化した防災啓発活動」
■ 浜市第5地区まちづくり委員会（広島県浜市）	「地区住民が一丸となって取り組む防災まちづくり」
■ 興和自主防災連合協議会（広島県浜市）	「防災ボランティアスタッフ（防災美内人）による地域防災活動」
■ 福祉フォーラムin別荘見聞実行委員会（大分県別荘市）	「別荘市における障がい者インクルーシブ防災」